



コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

さて、急速に高齢化が進む中、2007年65歳以上の高齢者と言われる方々が21%を記録し、現在3,347万人を超え人口の1/4を占める超高齢化社会となっております。これらの方々は、今の豊かな社会を築いてこられた人々たちです。「平均寿命が延びた」と言いますが、高齢者夫婦や一人暮らしの高齢者にとって、日々の暮らしがどれほど不安で、心細いことでしょうか。私も含め将来が不安で仕方が無い、こういう声はよく聞かれます。一つの時代を築いてこられた

方々に、安心して過ごして欲しいと願うばかりです。この様な折、当地域に「コープリハビリテーション病院・老健あかね」が建設され完成間近となっております。地域は支え合っていかなければなりません。いつも元気で健康に見守ってくれるリハビリテーション拠点が完成間近です。私も高齢者や地域は「コープリハビリテーション病院・老健あかね」に大きな期待を寄せています。施設の方々はもとより、地域もあと半年後の開設に心躍らせています。



林 親宏 会長

水島のリハビリ拠点に期待

千鳥福崎連合町内会会長 林 親宏



建設の状況



リハビリの動線を担当者が確認

その結果、毎年実施している「利用者満足度アンケート」の接遇（職員の言葉遣いや態度に気配りが感じるか）の評価点が2012年度以降低下傾向であったものが、2016年度は、9.0ポイント



篠岡美代子

中国地区介護保健施設大会

地域で選んでいただける老健施設を目指して

第2回中国地区 介護老人保健施設大会 in 岡山が開催され、当施設で取り組んだ「チームがひとつになるために」ハイパフォーマンスチームを「目指して」を発表しました。利用者体験をとおし、利用者が求める理想のスタッフになるためにチームで関わり、期待以上の成果を出していることとする取り組みです。人は、常に「意味」を探し続ける動物です。そして納得さえできれば、人は驚くべき力を発揮できるのです。能力が高くても納得出来ずに仕事をしたら、潜在能力の半分も発揮することが出来ません。今回、利用者満足度を上げるためにチーム一丸となり取り組んできました。その結果、毎年実施している「利用者満足度アンケート」

無料低額診療事業に伴う 無料健康相談のご案内

医療相談・連携室では...
生活が苦しいので、安心して療養できない、入院・入所費用の支払いに困るなどの相談に応じています。
相談は専門の職員がお受けいたします。
ご相談の内容は秘密厳守いたしますので、安心してご相談ください。

担当: 田辺・福井・小野・大野
電話: 086-444-3212 (代)
メール: msw@coopreha.jp

受付時間
毎月第1水曜日
9:30~11:30

コープリハビリテーション病院・老健あかねで 無料低額診療事業を始めます

無料低額診療事業とは、経済的理由等により、必要な入院入所のサービスが受けることができない方に対して、医療費・入所費用の負担を無料、または低額にする事で、安心して療養していただくための事業です。この制度は、社会福祉法第2条第3項に基づいて行います。開始時期や内容等、詳細は次号でお知らせいたします。

コープリハビリテーション病院 医療ソーシャルワーカー 田辺 紀子

2015年度に比べ1.4ポイントも上昇することができました。(左表)

これから日本の高齢化と介護職員不足は非常に深刻な問題です。介護福祉士は「きつい」「危ない」「きたない」「給料が安い」などイメージが悪く、社会的地位も低く扱われていますが、介護職の業務を切り分けて細分化し比較的簡単な周辺介護を担う「介護助手」を導入し、介護福祉士の専門性を高める必要がある事を大会の講演で全国老健協の会長が話され共感しました。これからも「介護福祉士にな



ハイパフォーマンスチームの演習の様子

りたい」と思える取り組みや、地域で「老健あかね」を選んだだけのように私達の力を最大限発揮できるように努めていきます。

老健あかね
介護福祉士 篠岡美代子

入院や入所に際して、部屋代はいただいていません。

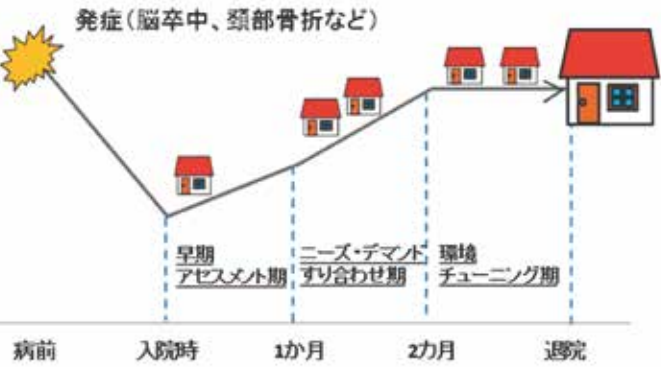
医療活動から地域との交流まで幅広い活動を発表 ～第13回 組合学術運動交流集会～

回復期リハビリテーション病棟も在宅にひと役

水島モデルの提唱



佐藤 雅昭



入院中に繰り返し実践する自宅リハビリの事例

回復期リハビリテーション病棟には脳卒中や骨折などの病気がなつた方が入院されます。本人・ご家族は急性期の病院から転院されたばかりで多くの不安を持っていきます。その不安の解消のために自宅への訪問(以下「自宅リハ」)を実践しています。自宅リハは患者さんの暮らし向きを最優先に考えると欠かせない取り組みのひとつです。実際に本人を自宅へお連れし、ご家族に動きを見て頂く事で、「結構、動けるね」「トイレに行くに

はもう少し少し足腰鍛えないとね」など現実的な課題が見つかります。入院中に何を解決するのかを全職種で共有できる絶好の機会となります。その取り組みを8月24日の組合学術運動交流集会(学運交)で発表しました。複数回自宅リハを実践している方が



発表者

学運交講評担当の鍛本院長 専門職と運動体を線で結ぶ大切さを強調

ユマニチュードではよりよい「絆」を結ぶための具体的な技法として「見る」「話す」「触れる」「立つ」ことを援助するとういう4つの柱を定めています。人は周りの人からまなざしを受けること、言葉をかけられること、触れられることが希薄になると、周囲と

自宅へ多く戻れていました。もちろん自宅に帰るには多くの課題があります。在宅を支えるケアマネージャーをはじめ、多職種の方と意見交換する仕組みも必要です。我々はこの取り組みを「水島モデル」と称し、在宅を支える一助となれるように今後も努めていきます。

特集 看護 ⑮
ユマニチュードのついで②
認知症看護認定看護師
田上 理枝
(コープリハビリテーション病院1病棟)

ユマニチュードはジネストとマレスコッティによって作り出された、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケアの技法です。人間らしさを尊重し続ける状況こそがユマニチュードであり、150を超える実践技術から成り立っています。中心となるものはケアを受ける人とする人との「絆」です。

シリーズ「専門職の誇り」



谷 淳美

事務課は皆様との出会いの入口 患者さんとご家族の第一印象を大切に

事務課の業務は、電話交換などの窓口受付業務をはじめ、コープリハビリテーション病院、老健あかねの医療事務請求や出勤簿・短時間通所リハビリの送迎など多岐にわたります。

その中でも受付は、玄関を入った時の最初の入り口であり、最後に扉を背にする出口という側面から情報発信や着信の起点となる場所と言えます。このように、はじめてお会いしたという接点を基に、点から線へ、線から面へと繋がります。信頼関係という絆が構築されていくことを実感し、楽しさや活力をもらえるところでもあります。



の「絆」が弱まり「人間として扱われていない」という感覚を失ってしまうかもしれません。さらに立つ事ができなくなり寝たきりになると、人として辛い生き方を強いられることとなります。「人間対人間」の「絆」を結び直すための技法がユマニチュードの4つの柱です。次から4つの柱を説明していきます。

○お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 8:30～17:00
(土日祝・年末年始を除く)
〒712-8024
倉敷市水島北春日町4番3号
ホームページ
http://coopreha.jp/
メールアドレス
info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

新入職員紹介

コープリハビリテーション病院 1病棟 看護師 西村 和子	コープリハビリテーション病院 2病棟 看護師 中濱百合子	コープリハビリテーション病院 事務課 事務 後藤 博子



受付での様子(筆者:右)

のニーズに応え、微力ながらも力になり、役に立つ事がおのずと「誇り」や「やりがい」につながるのではと思います。新病院になってまた、新たに受付での輪が広がることを願っています。

コープリハビリテーション病院
事務課 主任 谷 淳美

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。